

[http://www.sparj.com/kojimemo/KojiMemo20\\_SaveJapan&Earth.pdf](http://www.sparj.com/kojimemo/KojiMemo20_SaveJapan&Earth.pdf)

(日本と地球を救う) に対する、河村の親友 K 氏からの批判 2009 年正月

河村さん

明けましておめでとうございます。小生は例年と変わらずまずまず穏やかな新年を迎えています。

さて、河村さんから剛速球のご相談を投げかけられて少々当惑気味です。とは言え、大きな問題提起ですので若干の感想を述べさせていただきます。

先ず第一に、世界的、歴史的危機であり、非常時だから大改革が必要というのがどうやら貴兄の議論の出発点のようですが、何がどのように非常時であるのかの分析、問題提起が不十分だと思われま。

今、世界が直面している問題は沢山ありますが、その一つは世界的同時的経済悪化でしょう。これは、世界的にリセッションに入りかけていたときに、米政府がリーマンブラザーズへの対処を誤ったことが引き金になって一挙に世界的な信用収縮を引き起こしたことによります。現在の高度に発達した情報化社会では一つの出来事が各方面の過剰反応を引き起こし、今までは想像できなかったような速さと規模で経済が上下に揺れ動くようになっているということでしょう。しかし、この問題に対しては、各国政府が必死の対応をして、なんとか沈静化に向かいつつあります。まだ暫くは経済悪化が進行する可能性はありますが、世界恐慌に発展する可能性は低く、長くかかっても 5 年以内には元に戻るのではないかと私は考えています。この問題に対しては日本政府も万全とはいえませんが、他国並みの対応をしていると思われま。

二つ目は、地球温暖化に代表される地球環境の悪化です。この問題こそ喫緊の課題ですが、各国の経済的利害の関係で期待されるスピードでの対応がされていないのが実情です。しかし、今まで癌であったアメリカの対応が大統領の交代で大きく変化する可能性があります。そうなると、この問題の重要性は世界的に十分に認識されているので、今年以降大きく進展するのではないかと密かに期待しています。この問題に関しては、日本は技術的には最先進国の一つですが、政府の動きは京都議定書等そこそこの対応をしてきているものの、低炭素社会に向けての制度作りの動きは、欧州の一部先進国に比べ緩慢であると言えます。しかし、今後世界各国の歩調が揃えばそれなりの対応はしていくものと期待しています。三つ目は、アフリカ諸国を中心とする飢餓問題、先進国と発展途上国との貧富の格差の拡大、宗教問題と経済格差に起因する世界的地域紛争の拡大、深刻化等々でしょう。

多分貴兄の言いたいことは、日本の政治体制が上記のような色々な世界的問題やその他の諸々の国内問題に十分に対応できていないということだと思のですが、そうであるなら具体的などのような問題にどのように機能不全をきたしているのかという分析が必要ですし、それを改善するにはどうすればよいか、誰が(ここが最重要)それを決定し実行するのか、そして一般国民としての河村個人、K 個人は何をなすべきなのかというところまでの議論が必要でしょう。

貴兄が提唱されている個々の施策についての感想は後述しますが、今の日本の政治体制の下ではその何れの施策も国会と大臣たちの決定なしには実行出来ないということを銘記する必要があります。施策6で「議員定数を半減させるのを、国会で決めることは不可能である。国民投票によるしかないであろう。」と述べておられますが、国民投票に委ねるとしても国会の決議によらなければ実行できないのです。

私は、今の日本の政治状況をよしとするものでは決してありません。日本の政治家としては珍しく確固とした信念の下に指導力を発揮しようとした小泉政権下でも議会、官僚の強固な抵抗で改革が十分には達成されなかったこと、その後の政情の不安定さなどをみていると民主主義政治を維持するための犠牲、コストの大きさに溜息をつかざるを得ません。

しかし、イギリスの政治家が吐露したように「民主主義は最悪の政治体制だが、現存する体制の中では一番まし」なのも確かなのです。改革が十分になされないことや政情の不安定さもある意味では民意の結果と言えなくも無いのです。欧州の民主主義先進国でも前後左右に大きく振れながら歩んできていますし、日本も民主主義の歴史が浅いため欧州先進国より効率が悪いですが長い時間軸で見れば大過なくベターな道を選んできていると判断してよいのではないかと考えています。官僚組織に問題があるのは、それを統御すべき国会に問題がある乃至は未熟な議員が多いと

いうことであり、それは議員を選ぶ国民がまだ未熟だということでもあるのです。議会制民主主義に変わる制度がないのであれば、国民一人一人が意識してそれを育てていく努力をしていくしか道は無いでしょう。

私が衆議院議員であったり、影響力のある評論家であれば言いたい事、訴えたいことは山ほど、ありますが、一市民に過ぎない、又政治的人間でない私の立場では、起こっている事柄を自分なりに分析し、理解し、選挙に際してその権利を行使して、少なくとも自分の考えに合わない人は議会に送り込まないということが最低限の義務であろうと思っています。そして、金持ちでもない自分にささやかにでも出来ることとして、年二回ユニセフにささやかな寄付をして世界的な飢餓問題に対する自分の関心を表明することぐらいだと思っています。

以上が私が述べたい総論ですが、貴兄の施策について若干のコメントをさせていただきます。

施策1. 日本の公務員数が先進国中最小であるというデータを示した上で、その3分の1を削減出来るという論拠が全くわかりません。私企業でも人員を3分の1削減したら今までと同じ規模の経済活動を維持することは不可能でしょう。

私は、国家公務員体制の最大の問題点はキャリアとノンキャリアが出発点から完全に分けられていることにあると考えています。それと、まだ完全には解決されていない天下りの弊害です。

施策2. 世界に貢献するため人員や技術や資金を供与するというのは、先進国として出来るだけ努力するべきでしょう。しかし、貴兄は最近日本の対外経済援助額が経済停滞のため減少してきて国際的にその地位が低下してきていることをご存知ですか。貴兄が打ち上げられた援助を実施する実力は今の日本にはないでしょう。

施策3. 提案された基金は言い換えれば国家が保険業務を行うということです。公営事業の効率がいかに悪いかは既に色々な分野で証明済みです。又、保険料に対して保険で保障される内容が大きければ応募者が殺到し、その事業は財政的に破綻します。保障される内容が少なければ応募する人はいないでしょう。それに、この制度は富裕者のみを対象にするという点で公正感を欠きます。1億円の供出案について言えば、供出すると期待される人は遺産相続人ではなく、財産を残す人です。相続税に頭を悩ます人ではないので、インセンティブがそれほど働くとは思えません。

施策4. 大統領制と首相制には一長一短があり、大統領制にもアメリカ、フランス、ロシア等色々なタイプがあり、それぞれ得失があるようです。貴兄の想定しておられるのは多分米国型と思われるのですが、これの最大の短所は一旦選出されたら、その人物やその政策に問題ありと分かっても4年間変えられないということです。(リコール制度もありますがそれで罷免されることはまずありません)

日本のようにまだ民主主義が成熟しきっていない国では、今のように比較的簡単に長を変えられる制度のほうがリスクが低いのではないかと考えています。

又、二大政党制が定着している米国では候補を選出するまでにそれぞれの政党で厳しい審査が行われ、その過程でその人物評価、政策評価が国民の前になんかの程度提示されますが、二大政党制には程遠い日本ではそのような厳しい事前審査がなく、単なる人気投票になって思わぬ不適格の人物を選んでしまう可能性が無きにも非ずです。

施策5. どのような文化的、精神的パラダイムを想定しておられるのか分かりませんが、特に異論はありません。但し、国が特定の思想的方向性を強制しないということを前提に。

思想、宗教に関しては他人の権利を侵害しない限り自由に放任するというのがベストとえます。

施策6. 議員数がどれくらいがベストなのかは私には判断できませんが、政党数が多すぎるとして批判するのはおかしいではありませんか。政党が出来るのは政治的理念、利害関係を同じくするものが集まるからです。政党が多いということはそれだけ考えを異にするグループがあるということです。その政党数を否定する、制限するということは少数意見を頭から否定することにつながります。真の民主主義は少数意見を尊重し、議論をしつづけた上で多数意見により決定していくというのが有るべき姿でしょう。

施策7. 天皇制についての私の考え方は、万民全て平等という観点からは天皇制は戦後の体制変革時に廃止すべき制度ではなかったかと考えます。しかし、国内にも、国外にも歴史ある王政、貴族性に価値を置く人々がかなりおり、国際外交上でも相応の貢献性が認められることから、その

存続に消極的賛成の立場をとっています。しかし、時の為政者の恣意的な利用を極力排除することが絶対要件です。従って、新天皇の即位は前天皇の死去と共に行うというのが、もっとも中立的で安全な運用であると考えます。貴兄の提案のように政治経済情勢の刷新のために譲位させて改元するというのは、過去に行われた天皇制の政治利用の復活であり、認められるものではありません。

以上書いたことを読み返してみると貴兄の意見を全部否定しているようで申し訳ないのですが、貴兄の真面目な剛速球に真面目に対応しようとしたら上記のようになってしまいました。ご寛容のほどを。最近はずいぶんこのような事柄を真剣に議論することは全くないので、書いていて昔学生時代に部室で色々なことを真剣に議論したことを思い出していました。

日本も世界も今まで以上に全ての面で振幅が激しくなって油断のならない時代を迎えています、とりあえずは健康にだけは留意して毎日を有意義に楽しく過ごすことを心がけていきたいと思っています。貴兄もくれぐれもご自愛のほどを。

~~~~~

K

~~~~~

[http://www.sparj.com/kojimemo/KojiMemo20A\\_Criticise.pdf](http://www.sparj.com/kojimemo/KojiMemo20A_Criticise.pdf) として登録